

『江東区地域学校協働本部』について

地域学校協働本部とは、「こどもたちがのびのびと育ち、責任感と未来を担う力をもつ人に成長すること」の実現のために、地域と学校がみんなで活動を進める体制のことです。幅広い地域人材の参画や教育資源の活用等により地域全体でこどもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な取り組みを行います。

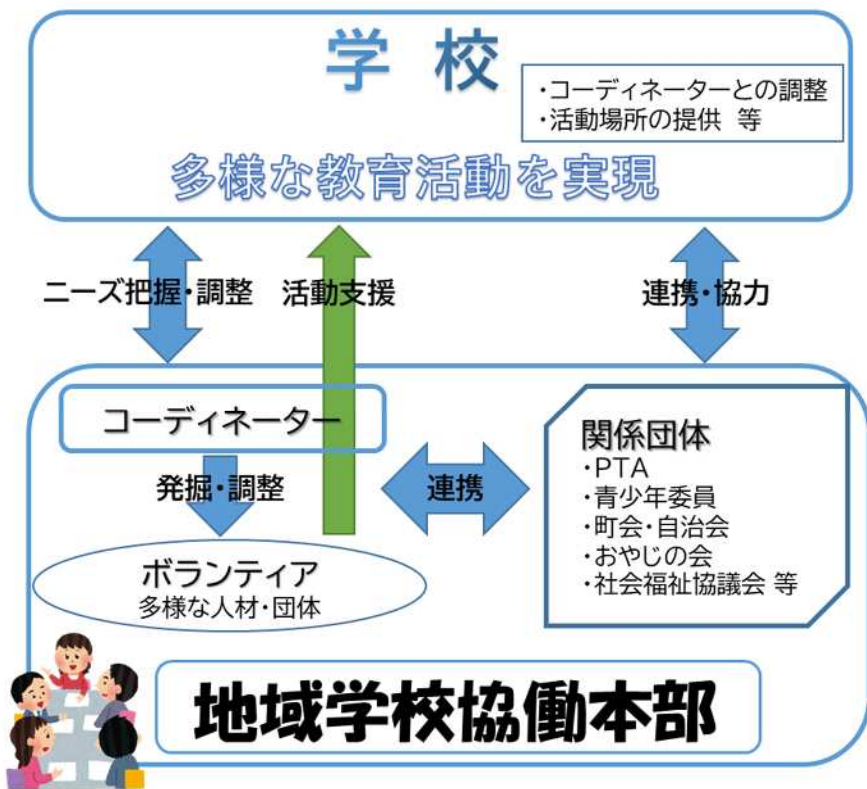
学校と協働本部をつなぐ役割を担うコーディネーターを中心としてPTA、青少年委員、子ども会、町会・自治会等の関係団体（者）で緩やかなネットワークをつくり、地域が一体的に活動を進める必要があります。

活動に伴う効果

- ・こどもたちにとっては地域の人たちを通して地域への愛着心が育まれ、地域の一員としての自覚をもつことができます。
- ・学校にとっては地域の力を借りて、より充実した教育活動ができます。
- ・地域の人たちにとっては経験・知識を役立てることで、生きがいや充足感などを得ることができます。

【ボランティアの活動例】

- ・授業支援・花壇整備・昔遊び
- ・図書整備・周辺パトロール
- ・読み聞かせ・入試等面接支援



活動をすすめるうえで

地域学校協働本部は、一定のルール（予算の制限や使い方、実践の記録など）の中で、「〇〇をやらなければならない」ではなく、「地域の力でこどもたちや学校のために『何ができるか』」に主眼を置いた多様な取り組みを柔軟に行うことができます。

活動の継続には、年間を通じて計画的かつ無理のない範囲で取り組むことが大切です。

コーディネーターの役割

学校のニーズを的確に汲み取り、その課題を解決するために、ボランティアを募ったり、得意分野をお持ちの方に依頼したり、全体をコーディネートする役割を担っています。日頃から学校との意思疎通を行います。

実施校開設一覧

		長計 前期						長計 後期				
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
小学校	八名川小				毛利小	深川小	南陽小	数矢小	明治小	平久小	東陽小	臨海小
					第二亀戸小	第二大島小	東川小	扇橋小	越中島小	辰巳小	川南小	東雲小
							第二辰巳小	元加賀小	豊洲北小	第一亀戸小	豊洲小	有明小
							第四大島小	浅間堅川小	第三大島小	香取小	豊洲西小	枝川小
							第五砂町小		水神小	砂町小	大島南央小	第一大島小
							東砂小			第二砂町小	第四砂町小	第五大島小
										北砂小	第六砂町小	第三砂町小
										南砂小	小名木川小	第七砂町小
中学校				第三砂町中		第二亀戸中	深川第一中	深川第二中	深川第四中	深川第三中	深川第八中	辰巳中
						亀戸中			深川第六中	深川第五中	東陽中	大島中
									深川第七中	有明中	第二砂町中	大島西中
									第三亀戸中	第二大島中	南砂中	有明西(後)
当該年度 設置校	小学校	1	0	0	2	2	6	4	5	8	8	10
	中学校	0	0	1	0	1	2	1	5	5	5	4
	合計	1	0	1	2	3	8	5	10	13	13	14
累計	小学校	1	1	1	3	5	11	15	20	28	36	46
	中学校	0	0	1	1	2	4	5	10	15	20	24

【実施校】

地域学校協働本部の前身となる学校支援地域本部について、前江東区長期計画の最終年度となる令和元年度に、全小・中学校・義務教育学校 69 校への導入を完了しました。

※有明西学園（義務教育学校）は、小・中学校に分けて掲載。

※令和元年度までは学校支援地域本部。令和 2 年度に地域学校協働本部へ全校一斉移行。

Q&A

Q.コーディネーターはどのような人になるのですか？

A.資格などはありません。PTA の OB や青少年委員、地域住民の方などが活躍しています。地域の人脈や、コミュニケーション力、調整能力のある方が適しています。

Q.予算はどのように使えるのですか？

A.コーディネーターへの謝礼金、地域学校協働本部の運営や活動に使用する消耗品、広報活動するための印刷費（業者へ外注）等に使用することができます。ただし、ボランティアへの謝礼金はお支払いできません。

Q.地域学校協働本部の組織はどのようなものですか？

A.各校に配置しているコーディネーターを中心に、PTA や町会など子どもたちを支援する各団体が目標を共有しながら連携し、協働活動を推進していく緩やかなネットワーク組織です。

Q.P T A の活動との違いは何ですか？

A.現役保護者が会員の PTA とは異なり、地域学校協働本部は地域住民の方に広く協力してもらい活動している点が大きな特徴です。日常的に PTA と協力し合い連携していくことが望ましいといえます。

Q.具体的にどのような成果が出ていますか？

A.授業の充実にとどまらず、読み聞かせや体験教室等の多様な活動を通じて、児童・生徒のコミュニケーション能力等の社会で通用する資質・能力を向上させる機会が生まれています。また、令和 5 年度は年間延べ 24,100 名もの地域住民を中心としたボランティアの方に協力いただいています。